

平成 24 年 5 月 10 日

各 位

雪印メグミルク株式会社
代表取締役社長 中野吉晴

平成 24 年 3 月期 決算短信発表にあたり

平成 24 年 3 月期のわが国経済は、東日本大震災からの復旧に伴う回復の動きが一部見られるものの、タイ洪水の影響、欧州債務危機による世界経済減速の懸念、歴史的な円高、原油価格の高騰など厳しい環境におかれ、依然として先行き不透明な状況が続いております。

食品業界においては、個人消費は底堅く推移しておりますが、消費者の食に対する安全意識は一段と高いものとなっており、商品の安全性の確保が一層求められております。

また、酪農乳業界では生乳需給の逼迫や原材料の高騰等の影響があり、引き続き厳しい状況にあります。

このような経営環境の中、当社は平成 23 年 4 月 1 日に日本ミルクコミュニティ株式会社および雪印乳業株式会社を吸収合併し、新たにスタートしました。

当期においては、震災の影響からの早期復旧に努めるとともに、「雪印メグミルクグループ中期経営計画（平成21年度～平成25年度）」に掲げた「乳飲料」「ヨーグルト」「デザート」「ナチュラルチーズ」の4つのカテゴリーにおける「カテゴリーNo.1 戦略」を強力に推進するため、新商品の開発ならびに商品ブランドの強化に取り組みました。また、本年 1 月には、ガセリ菌 S P 株の効果が報じられたことにより、ヨーグルトの販売が大きく伸張しました。

その結果、売上高は 5,094 億円（前期比 101.0%）、営業利益は 157 億円（前期比 100.7%）となり、売上高、営業利益とも前年を上回り、増収増益となりました。

「雪印メグミルクグループ中期経営計画」につきましては、震災の影響など、大きな経営環境の変化を受けたため、各種施策の再点検を行ないました。その結果、計画のコンセプトや骨子は維持しつつ、最終目標である連結営業利益200億円の達成年度を平成25年度から平成26年度に変更いたしました。

これまで取り組んできた「カテゴリーNo.1戦略」は、戦略的設備投資の実施、強いNB商品の開発によって、更に強力に推進します。戦略的設備投資のうち、茨城県稲敷郡阿見町の乳製品統合工場は、平成24年3月に着工しており、平成26年度下期の操業開始を予定しております。また、海老名工場における関東地区基幹工場としての体制整備と「ナチュレ 恵 megumi」の生産能力増強、および大樹工場における「さけるチーズ」の新棟は今期に稼動予定であり、事業強化に向けた生産基盤の構築を着実に進めております。

また、新たな施策として、よつ葉乳業グループとの共同取組、協同乳業グループとの業務提携を開始し、事業構造改革を進めます。

雪印メグミルクグループは、既存の枠組みに捉われず、スピード経営を実践することにより、持続的な成長を目指してまいります。

「未来は、ミルクの中にある。」のコーポレートスローガンのもと、乳（ミルク）の新しい価値の創造に向けて、役職員一同積極的にチャレンジしてまいります。

今後とも皆様方のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上